東京藝術大学｜油画｜2022年度

常勤教員
小林正人［油画第1研究室］
小瀬村真美［油画第2研究室］
篠田太郎［油画第3研究室］（−2022年度前期）
杉戸洋［油画第4研究室］
西村雄輔［油画第5研究室］
薄久保香［油画第6研究室］
宮本武典［油画研究室］
Michael Schneider［版画第1研究室］
三井田盛一郎［版画第2研究室］
中村政人［壁画第1研究室］
工藤晴也［壁画第2研究室］
齋藤芽生［油画技法・材料第1研究室］
秋本貴透［油画技法・材料第2研究室］
中山開［助教］
林頌介［助教］

客員教授
小池 一子
椿 昇

非常勤講師・テクニカルインストラクター
高畠依子［油画非常勤講師］
岡本瑛里［油画非常勤講師］
冨安由真［油画非常勤講師］
SIDE CORE［油画非常勤講師］
ジェシー・ホーガン［油画テクニカルインストラクター］
ジェイミ・ハンフリーズ［油画テクニカルインストラクター］
福住廉［油画テクニカルインストラクター］
沢山遼［油画テクニカルインストラクター］
宮寺雷太［版画テクニカルインストラクター］
杢谷圭章［版画テクニカルインストラクター］
長田奈緒［版画テクニカルインストラクター］
岸雪絵［版画テクニカルインストラクター］
冨永泰雄［壁画非常勤講師］
鶴身美友［壁画非常勤講師］
中野竜志［壁画非常勤講師］
牧野真耶［油画技法・材料非常勤講師］

教育研究助手
塙龍太［教務補佐］
内田麗奈［油画第1研究室］
柴田みづき［油画第2研究室］
平松可南子［油画第3研究室］
髙橋臨太郎［油画第4研究室］
伊東五津美［油画第5研究室］
家田実香［油画第6研究室］
横尾拓郎［版画第1研究室］
髙橋梓［版画第1研究室］
加川日向子［版画第2研究室］
波能かなみ［版画第2研究室］
葛谷允宏［壁画第1研究室］
武田充生［壁画第2研究室］
正木浩司［壁画第2研究室］
中根唯［油画技法・材料第1研究室］
大町有香［油画技法・材料第2研究室］

Tokyo University of the Arts
Oil Painting Department
Staff Exhibition *[NEWS]*

List of Works
作品リスト

—

凡例 notes
作品情報は以下の通り記載した。

—

［No.］
作家氏名｜Artist name

《作品タイトル》
Title
・
制作年 year
素材 Material
サイズ Size
・・・
作品テキスト Description

［1］
中根唯｜Yui Nakane

《海辺》
Seaside
・
2021年
ジェスモナイト、木、スタイロフォーム、寒冷紗、ボンド、石粉粘土、アクリル絵具
Jesmonite, Wood, Styrofoam, cheesecloth, wood glue, Stone dust clay, Acrylic colors
サイズ可変（約1350×3000×165 mm）

****

［2］
中山開｜Kai Nakayama

《模静物（鼠の塔・西日の台）》

・
2022年
グレーカード、木材、アクリル
1000×300×300 mm
・・・
油画管轄の壁面に使われている白ペンキはかなりの昔から使われ続けているこだわりの調色なんだとかいう嘘くさい噂を、何年か前に誰かが言っているのを聞いた。この季節、講評だなんだ壁塗りで大量に使われるのですぐに在庫が無くなり、発注お願いしますと自分らのとこに報告がくる。大事に使えよなとかぼやきながらいつもの流れで業者に電話。この流れが何十年とこのポジションが請けていた業務なのかとふいに考えてしまい、一過性の役回りなのだとは弁えながらも、自分がなんだかおぞましい歴史の繰り返しにでも巻き込まれているような妄想に陥ってしまった。
出勤前に突っ込んだトーストに胃液が混ざったクリーム色が食道の目前まで込み上げる。危ね。とりいそぎデスクにあったコーヒーを飲み干して蓋。オーケー働ける。
そんなひと昔前のフィクション、暗喩と嘘。目の前の色々から少しだけシフト、目を背ける。僅か、アンバーに傾いた。

****

［3］
横尾拓郎｜Takuro Yokoo

《（リトグラフ）ボーダーライン、無意味の内出》
(Display) unfold, boundary
・
2022年
キャンバスに油彩、ノートにシルクスクリーン、椅子
Oil on canvas, silkscreen on notebooks, chair
サイズ可変
Dimensions variable
・・・
ある日のメモ

そこに横たわる死体が、予期せず死んでしまったことについて考えている。私／彼女が殺してしまったのか、ただそこで死んでいるのかは判断がつかない。

横たわる死体と、そこに向けられる（たとえ目を逸らしていても、はっきりとそれを意識する）視線。そして死体は、死体にもかかわらずまだ生きている。動きはしないけれど、温もりのわずかに残る体。

彼女と死体との間に、わたし—あなたという関係はもはや存在せず、死体は単なる物として———死体（dead body）として、そこにある。まるでずいぶん前に借りたまま返していない本のように、なんとなく嫌な感じで。

****

［23］
家田実香｜Mika Ieda

《smoothie》
・
2015年
綿布にアクリル絵具
acrylic on cotton
410×320×20 mm

****

［24］
波能かなみ｜Kanami Hano

《ドーナツ》
Doughnut
・
2022年
木版画｜和紙に水性絵具
Woodblock print｜water-based ink on Japanese paper
508×393 mm（Frame size）
・・・
これは木版画なので、木を彫って摺る工程を経て絵が作られます。
エスキースや下絵の段階では鮮明だったが、工程の途中で、作品が完成した時にはすっかり忘れているような、とりとめのない記憶や経験をコラージュしたものです。

横を向いて舌を出し、ドーナツを弄んでいるような女の胸像のようなもの。
—
This is a woodblock print.
It is a painting created through the process of carving and printing wood.
It is a collage of small daily memories and experiences that were vivid at the stage of esquisse and preliminary drawing.
However, those memories and experiences are so trivial that they are often completely forgotten during the process of carving the wood or at the time of completion. (It's like waking up in the morning and not being able to remember the dream you had.)

So, it is like a bust of a woman facing sideways, sticking out her tongue and playing with a donut.

****

［25］
中根唯｜Yui Nakane

《海辺の海辺》
Seaside by the seaside
・
2022年
木炭紙、木炭
Paper, Chacoal
650×500 mm

****

［26］
波能かなみ｜Kanami Hano

《張り子（ウサギ）》
Papier mache (Rabbit)
・
2022年
張り子、和紙に木版画
Papier mache, woodblock print on Japanese paper
225×100×50 mm
・・・
抜け殻である張り子という存在に興味を持っています。
表皮だけ残されたものに対して、生命的なものを感じる気がします。

oil, panel, inkjet print
300×420 mm
・・・
あの世
Anoyo

****

［9］
塙龍太｜Ryota Hanawa

《正面から向き合うための印》
Sign to face the front
・
2022年
缶
Can
45×140×45 mm
・・・
癖
Habit

****

［10］
髙橋梓｜Azusa Takahashi

《霊妙な空気》
Atmosphere
・
2022年
アクリル絵具のステンシル、紙
Stencil with acrylic colours, paper
420×340 mm

****

［11］
大町有香｜Arika Omachi

《無題》
no title
・
2022年
麻布、焼石膏、岩絵具
linen, gesso, rock paint
530×652×20 mm

****

［12］
加川日向子｜Hinako Kagawa

《行方》
Whereabouts
・
2022年
キャンバスに油彩、ノートにシルクスクリーン、椅子
Oil on canvas, silkscreen on notebooks, chair
サイズ可変
Dimensions variable
・・・
ある日のメモ

そこに横たわる死体が、予期せず死んでしまったことについて考えている。私／彼女が殺してしまったのか、ただそこで死んでいるのかは判断がつかない。

横たわる死体と、そこに向けられる（たとえ目を逸らしていても、はっきりとそれを意識する）視線。そして死体は、死体にもかかわらずまだ生きている。動きはしないけれど、温もりのわずかに残る体。

彼女と死体との間に、わたし—あなたという関係はもはや存在せず、死体は単なる物として———死体（dead body）として、そこにある。まるでずいぶん前に借りたまま返していない本のように、なんとなく嫌な感じで。

****

・
2022年
版画、OSBボード、アクリル板
Lithograph, OSB board, perspex
サイズ可変
Dimensions variable

****

［4］
中根唯｜Yui Nakane

《野を駆ける》
Running in the field
・
2021年
ジェスモナイト、木、スタイロフォーム、寒冷紗、ボンド、石粉粘土、アクリル絵具
Jesmonite, Wood, Styrofoam, cheesecloth, wood glue, Stone dust clay, Acrylic colors
サイズ可変（約1350×3000×165 mm）
Dimensions variable

****

［5］
家田実香｜Mika Ieda

《OSCA171217》
・
2017年
綿布にアクリル絵具
acrylic on cotton
315×180×30 mm

****

［6］
高橋梓｜Azusa Takahashi

《窓》
Mado
・
2022年
アクリル絵具のステンシル、木製パネル
Stencil with acrylic colours, wooden panel
410×410 mm
・・・
家具の木目、タイルや石畳、布の編み目など、身近にあるさまざまな色・形・質感からヒントをもらい、それらを組み合わせたり散りばめたりしながら、景色をつくる試みをしています。
主には、ステンシルやリトグラフをはじめとする版画技法、またドローイングやペインティングを行います。

****

［7］
塙龍太｜Ryota Hanawa

《曖昧》
Ambiguity
・
2022年
画鋲
Pins
30×55 mm
・・・
両面待ち
Waiting for either of two gates

****

［8］
塙龍太｜Ryota Hanawa

《smile again》
・
2019年
油彩、パネル、インクジェットプリント
幽霊に近いかもしれません。
—
I am interested in “papier-mâché” as a cast - off skin.
Even though only the skin should be left, I feel like it has some kind of life.
It could be something like a ghost.

****

［27］
波能かなみ｜Kanami Hano

《張り子（クマ）》
Papier mache (Bear)
《張り子（シロクマ）》
Papier mache (Polar bear)
・
2021年
2022年
張り子、和紙に木版画
Papier mache, woodblock print on Japanese paper
170×100×35 mm

****

［28］
中根唯｜Yui Nakane

《重要な絵》
The important painting
・
2022年
ジェスモナイト、塩ビパイプ、アクリル絵具
Jesmonite, PVC pipe, Acrylc colors
200×200×3000 mm

****

［29］
林頌介｜Kohsuke Hayashi

《デザイン・ワーク》
Design works
・
2014–2022年
印刷物
Printed matter
サイズ可変
Dimensions variable
・・・
2014年から2022年にかけて担当した印刷物の仕事のいくつか。ここで考えているのは「プロセスのこと」「2つのものの間にある関係のこと」、そして「空間のこと」。
例えば書籍の製造過程では、どんな製本方式を選ぶかによって、そのプロセスが幾通りかに変形する。
今回配布しているハンドアウトを例に取れば、この、たかだか8ページの冊子を作る際に選んだ「中綴じ」という方式は、レイアウト段階での「面付け」という工程にそのまま影響を与えている。この製本条件のもとでは、ページが1から8と順番に並ぶわけではなく、6ページの右側に3ページ目がきたりする（当然規則性に基づくが、局所的に見れば、一種のほころびのようにも感じられるかもしれない）。
こうして平面的に配置されたものが、諸条件によって、空間的に（もっと言えば時間的にも）捻れを発生させる。つまりそこに、決して見えない厚みがある（その厚みとは選択肢の層のことであり、見えないが故に「凹み」と表現したくなる質を持っている）。
選択肢の層に埋もれて、この目の前の1文字を、はたして誌面の適性な場所に配置することができるだろうか。1文字ならまだしも、図版や文章といった複数の要素を、倫理的に調停することができるだろうか。「文字は震えている」という鈴木一誌の言葉を覚えておこう。書籍はおそらく、きっと、凹んでいる。

［13］
平松可南子｜Kanako Hiramatsu

《下から見た噴水》
Fountain (bottom view)
・
2022年
キャンバスに油彩、鉛筆
Oil on canvas, pencil
2000×2000×50 mm
・・・
ある対象にもう一度出会うとき、厳密には同じものを見ていない、と言うこともできる。演劇の上演のように体験は毎回異なる。
大気の循環の中で、水たまりは毎回少し形を変えて現われ、噴水もひとつ一つの水飛沫によって、その形を変化させ続ける。
そのように「差異」を持つ対象を描いている。
—
When we encounter a thing again, we can say that we are not exactly “seeing the same thing”. Like a play, it is a different experience each time.
In the circulation of the atmosphere, puddles of water appear with slightly different shapes each time. The fountain also keeps changing its shape with each splash.
In this way, I draw objects that have “differences.”

****

［14］
平松可南子｜Kanako Hiramatsu

《上から見た噴水》
Fountain (top view)
・
2022年
キャンバスに油彩、鉛筆
Oil on canvas, pencil
2000×2000×50 mm

****

［15］
しばたみづき｜Midzuki Shibata

《管》
Tube
・
2022年
土（西会津）
Soil (Nishi-Aizu)
サイズ可変
Dimensions variable
・・・
福島県西会津町で採取した土（粘土）
Soil (clay) collected in Nishiaizu Town, Fukushima Prefecture.

****

［16］
家田実香｜Mika Ieda

《Rear Window221102-4》
・
2022年
綿布にアクリル絵具
acrylic on cotton
333×220mm×20 mm

****

［17］
高橋梓｜Azusa Takahashi

《風景−C》
Fukei - C
・
2020年
アクリル絵具、水性ペン、鳥の子紙、木製パネル
Acrylic colour, water-based pen, Japanese paper, wooden panel
300×300 mm

****

［18］
高橋臨太郎｜Rintaro Takahashi

《After a Typhoon》
・
2022年
2850×4550 mm

****

［19］
伊東五津美｜Izumi Ito

《Transplants》
・
2022年
木材、窓、LEDライト、植物、コンクリート
wood, windows, LED light, plants, concrete
1000×800×1480 mm
・・・
埋立地を彩るために何処かから移植された植物。知らない土地で育ち、種を落として小さい芽を生やしていた。その姿に違和感を覚えて、植物の移動について考えた作品。原生種を見ること・育てること・愛でることは自分の知らないその環境について意識を向けることになるのか。
—
A plant transplanted from somewhere to design a reclaimed land. They grew up in an unknown land, dropped their seeds, and grew small sprouts. This work made me think about the migration of plants, as I felt uncomfortable with their appearance. Does seeing, nurturing, and loving native species make me aware of their environment, where I have never been.

****

［20］
中根唯｜Yui Nakane

《野を駆ける野を駆ける》
Running in the field is running in the field
・
2022年
木炭紙、木炭
Paper, Chacoal
650×500 mm

****

［21］
中山開｜Kai Nakayama

《模静物（灰の問う・目覚ましの台）》
・
2022年
グレーカード、木材、アクリル
1200×300×300 mm

****

［22］
高橋臨太郎｜Rintaro Takahashi

《Radius harps》
・
2022年

****